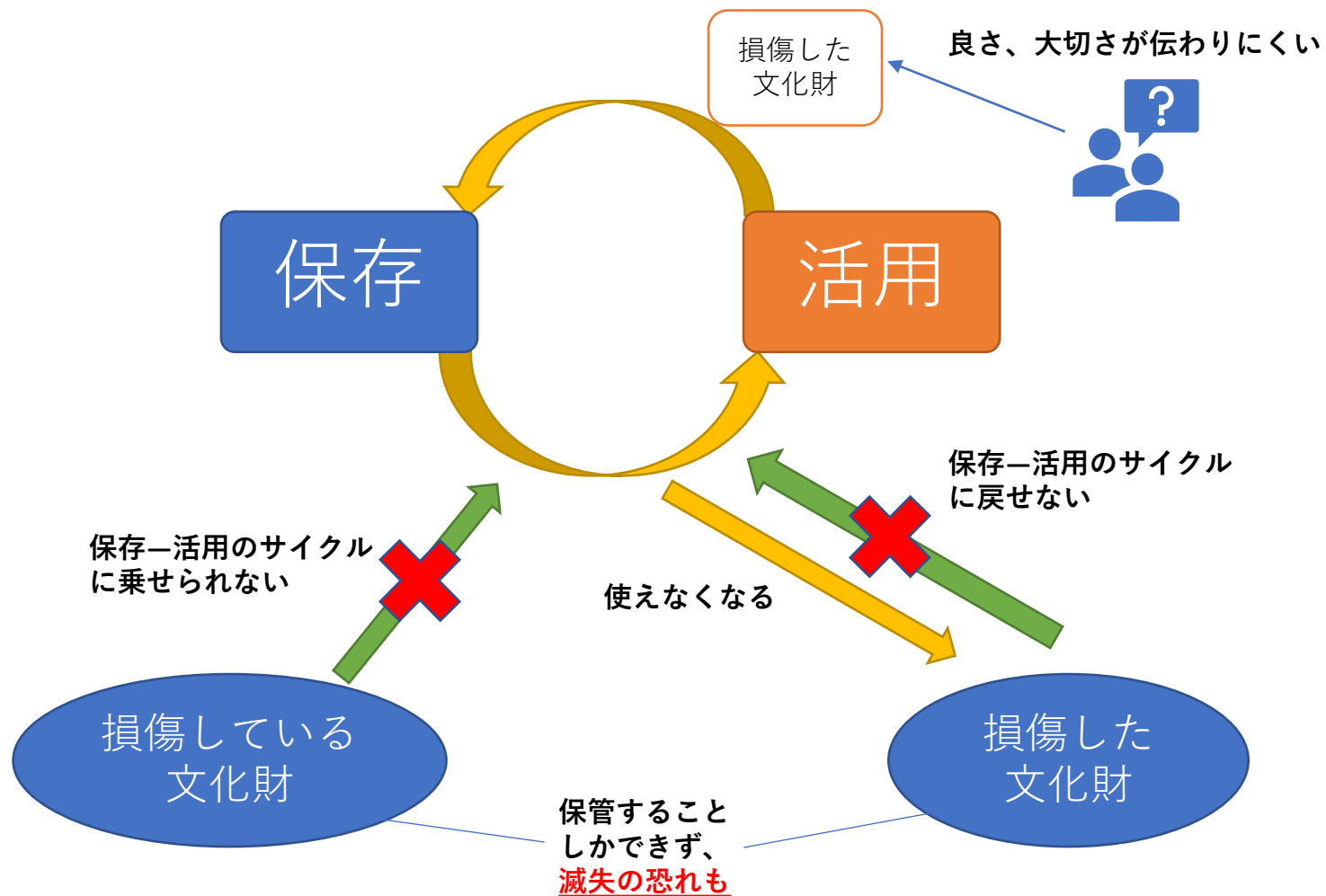


# 文化財修理センター（仮称）の機能イメージ

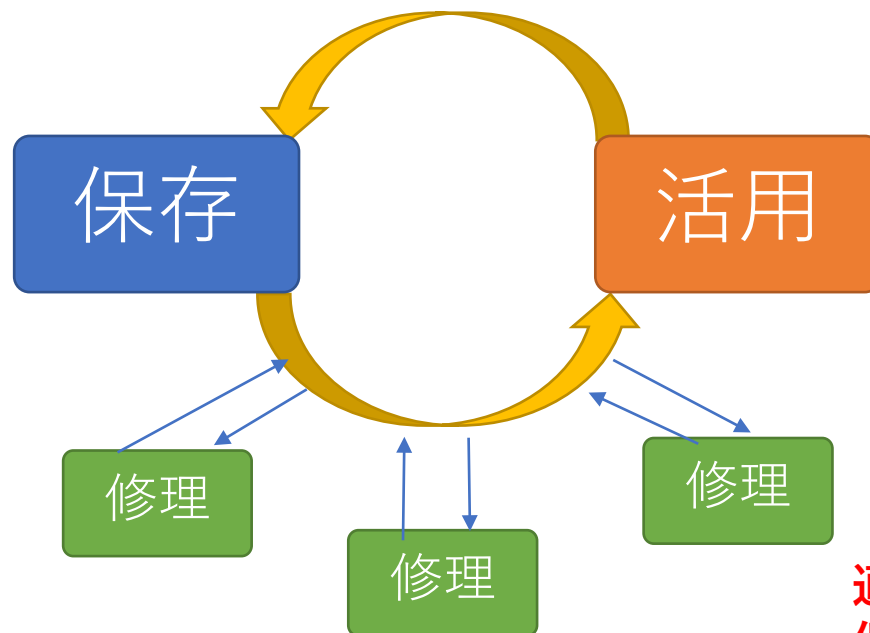
---

# 修理なき保存・活用



やがて機能不全に陥り、保存一辺倒に

## 修理と保存・活用



適正な周期での修理により  
保存・活用サイクルが機能

## 現状の修理における課題

- ・ 危機感を持った所有者や関係者が個別に対応している状況
- ・ 所有者に修理予算がないことが多い
- ・ 中長期的な修理計画もないことが多い
- ・ 一件ごとの事業規模が建造物記念物と比較して小さく、問題が過小評価されがち
- ・ 修理の実施に至らないことも少なくない
- ・ 応急処置にとどめてしまうことも多い
- ・ 安価な古美術品修復と比較し、高額な文化財修理が敬遠されることもある
- ・ 過去の修理／修復の記録がない、もしくは分散している
- ・ アフターケアの範囲や方法が不明確
- ・ 修理結果を検証して評価する仕組みがない
- ・ 修理に詳しい関係者があまりにも少ない
- ・ 発言力／発信力が弱い

# 目指す姿

